

第2次東金市総合交通計画（素案）

アンケート調査結果

1. 公共交通に関するアンケート調査結果	1
2. バス利用者ヒアリング調査結果	15
3. 乗合タクシー登録者アンケート調査結果	19

東 金 市

1. 公共交通に関するアンケート調査結果

1-1. 調査概要

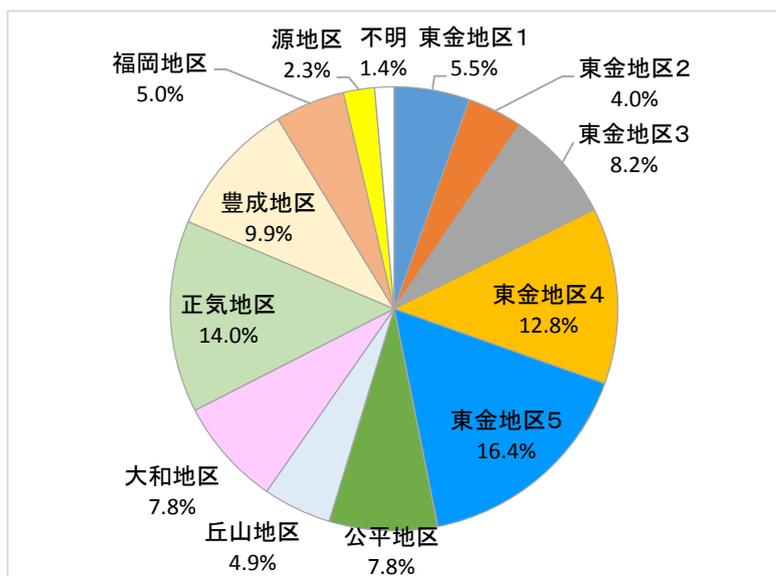
調査地	東金市内
実施方法	15歳以上の市民から無作為抽出し、郵送配布、回収方式
実施期間	平成28年1月29日（金）～2月12日（金）
配布数	3,000通
回答数	1,152通
回収率	38.4%
調査結果の見方	集計結果は、コンピュータにより機械的に、小数第2位を四捨五入し、百分率で表示している。集計結果によっては、個々の比率の合計が100.0%にならないケースもある。これは、例えば、回答者が同数で同じ比率でも、場合によっては合計を100.0%に合わせるために一方を「切り上げ」「切り捨て」の操作が必要となり、逆に事実と反する結果になることを避けるためである。

1-2. 調査結果

(1) 地区別回答者数

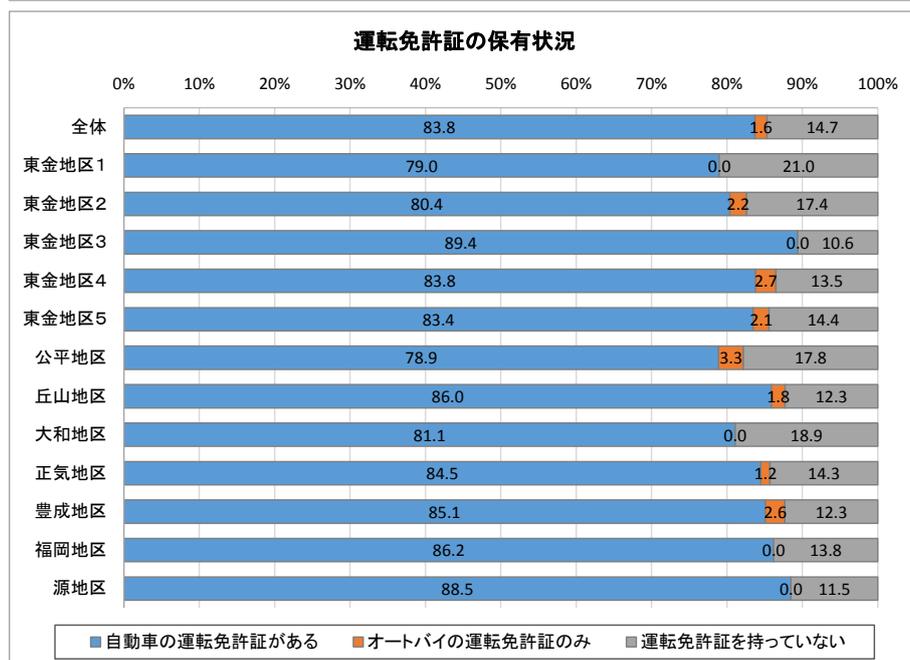
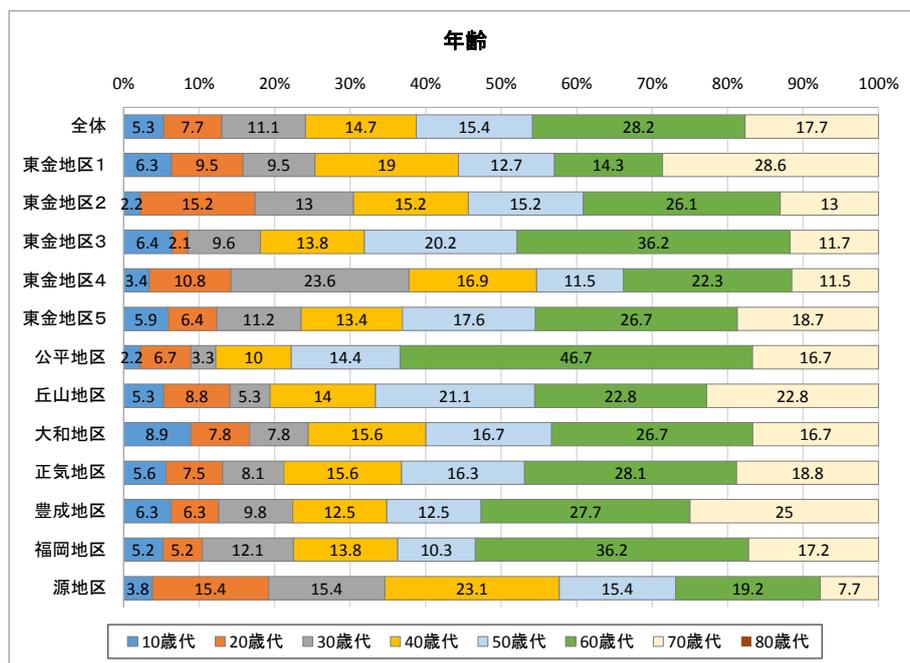
今回のアンケート調査における地区別回答者数は、以下のとおりである。

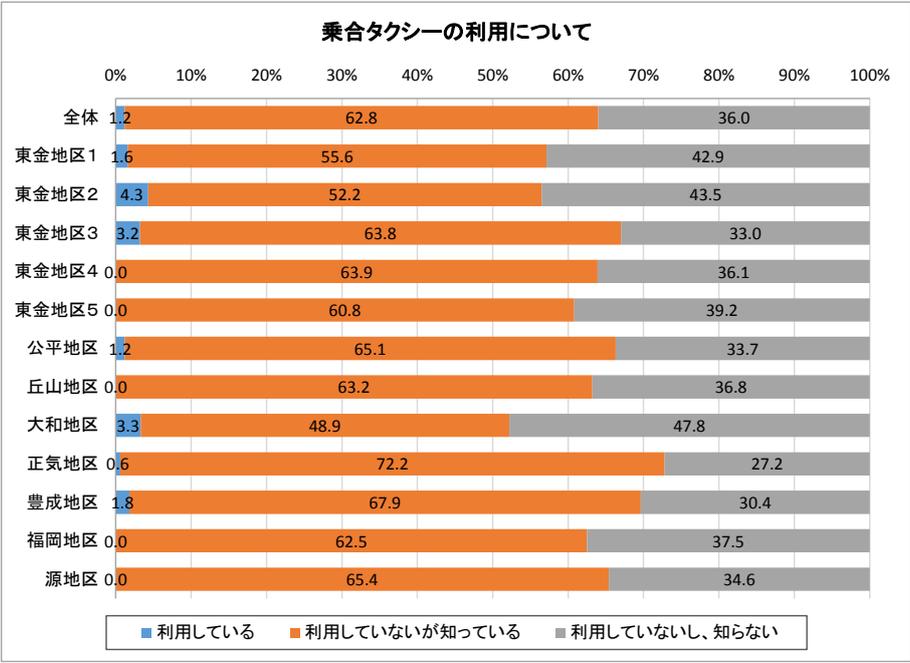
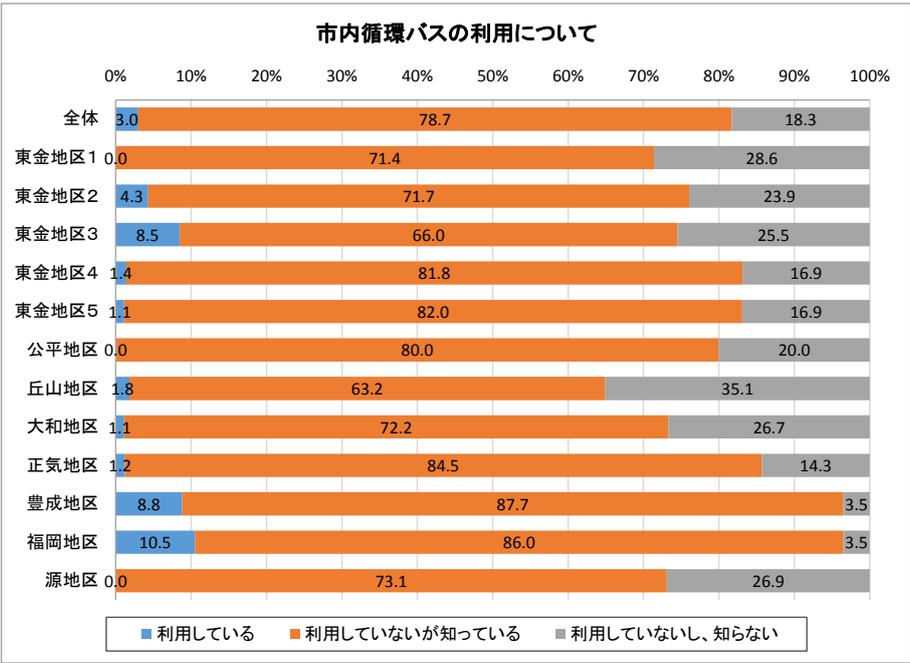
東金地区1(東金)	63
東金地区2(東上宿、南上宿、東岩崎、東新宿)	46
東金地区3(日吉台)	94
東金地区4(田間)	148
東金地区5(嶺南、城西)	189
公平地区	90
丘山地区	57
大和地区	90
正気地区	161
豊成地区	114
福岡地区	58
源地区	26
不明	16
総計	1,152



(2) 回答者の属性について

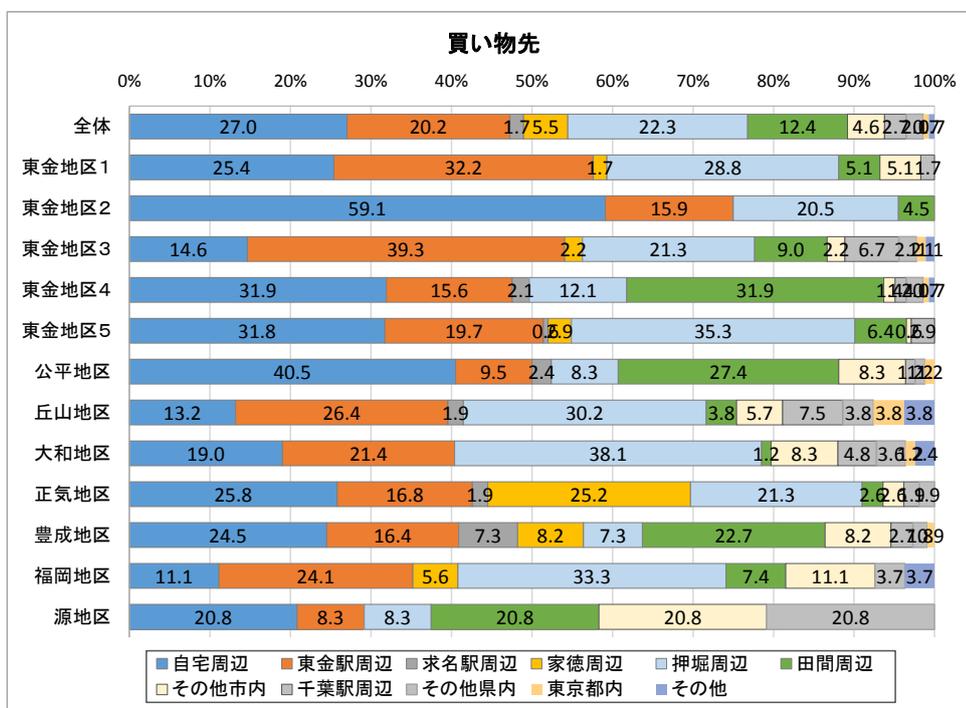
- 回答者は全体の45.9%が60歳以上の高齢者であり、公平地区、豊成地区、福岡地区は半数以上が高齢者となっている。
- 全体の85.4%が自動車あるいはバイクの免許を有している。
- 主に福岡地区と豊成地区で運行している市内循環バスの認知及び利用は、同2地区で多くなっている。運行されていない、公平地区、源地区では認知度が低く、利用者が0%となっている。
- 市内全域を対象に運行している乗合タクシーの認知及び利用は、利用している人は、全体の3%にとどまっておらず、認知度についても全体の36%が認知しておらず、乗合タクシーの周知が不十分となっている。

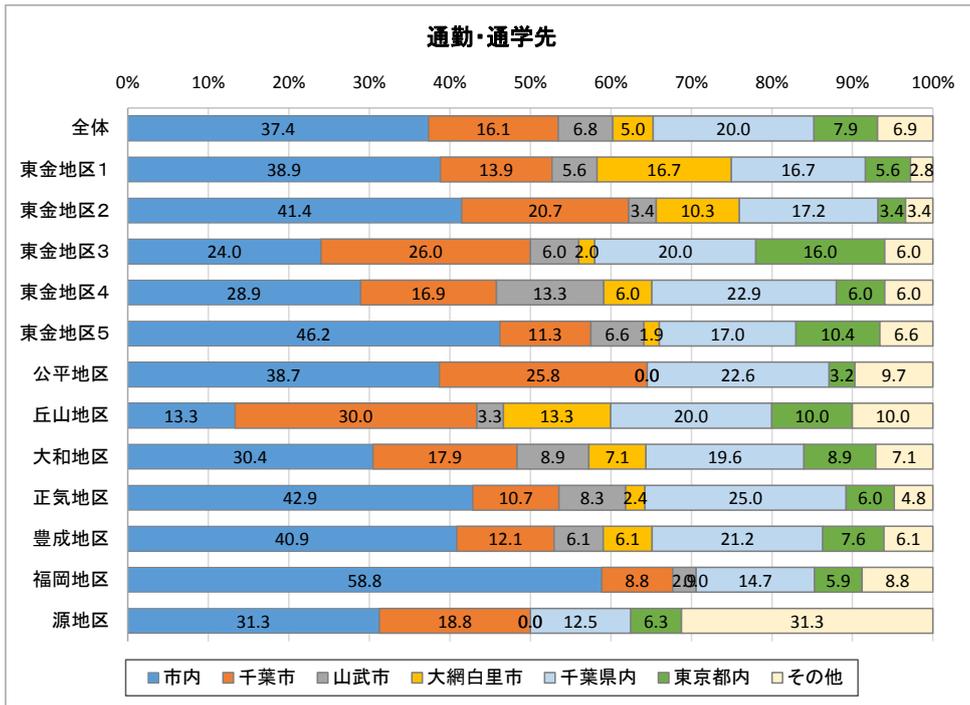
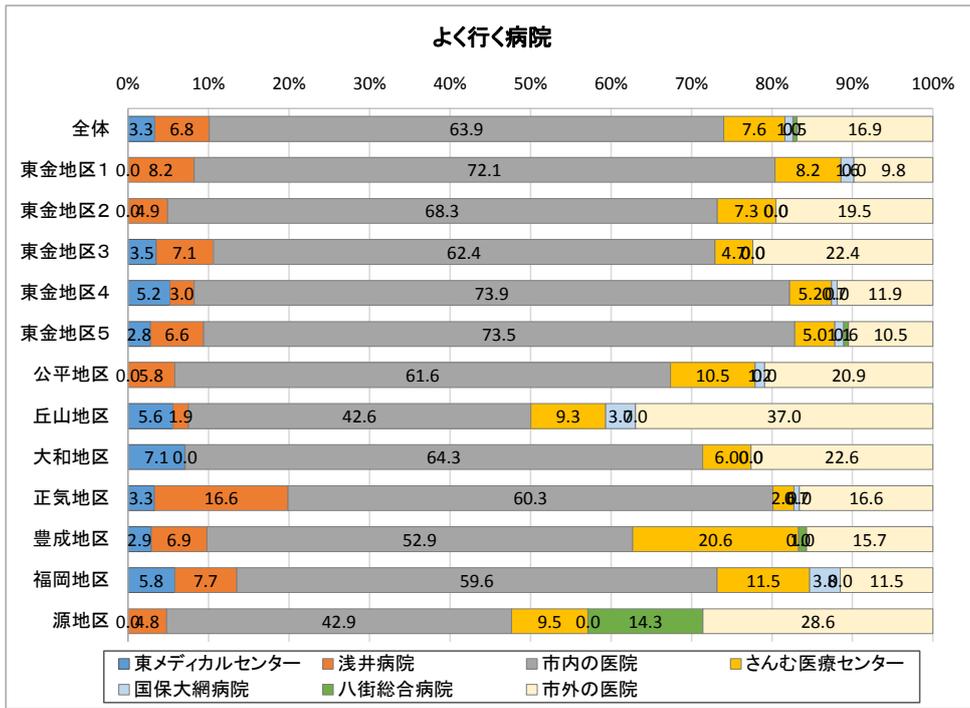




(3) 日常の移動先について

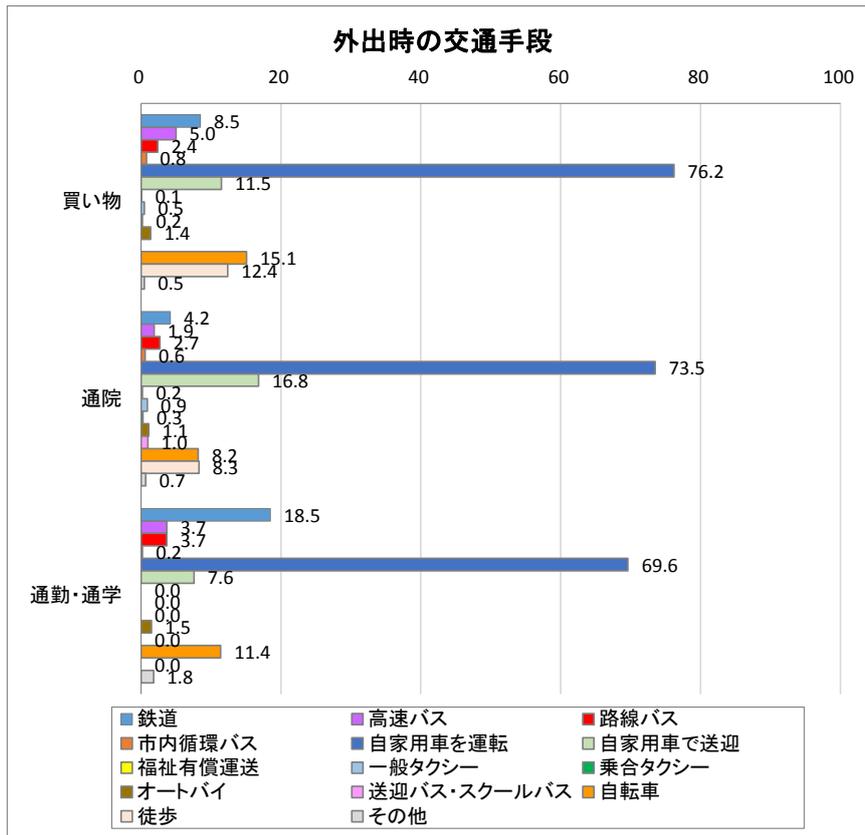
- 最もよく行く買い物先は、多くの地区は、「自宅周辺」及び「東金駅周辺」が多くなっているが、東金地区5（嶺南、城西）・丘山地区・大和地区・福岡地区では「押堀周辺」、東金地区4（田間）・公平地区・豊成地区では「田間周辺」、源地区では「自宅周辺」・「その他市内」・「その他県内」が多くなっている。
- 最もよく行く病院は、源地区及び丘山地区は「市外の病院」、その他の地区は「市内の病院」が最も多くなっている。また、豊成地区では「さんむ医療センター」源地区では「八街総合病院」も多くなっている。
- 通勤・通学先については、高速バスの停留所が多くある丘山地区では、「千葉市」「千葉県内」「東京都内」が多く、千葉駅に直通する八街駅までの路線バスが通る源地区では、「千葉市」が最も多くなっている。その他の地区は、「市内」が最も多くなっている。

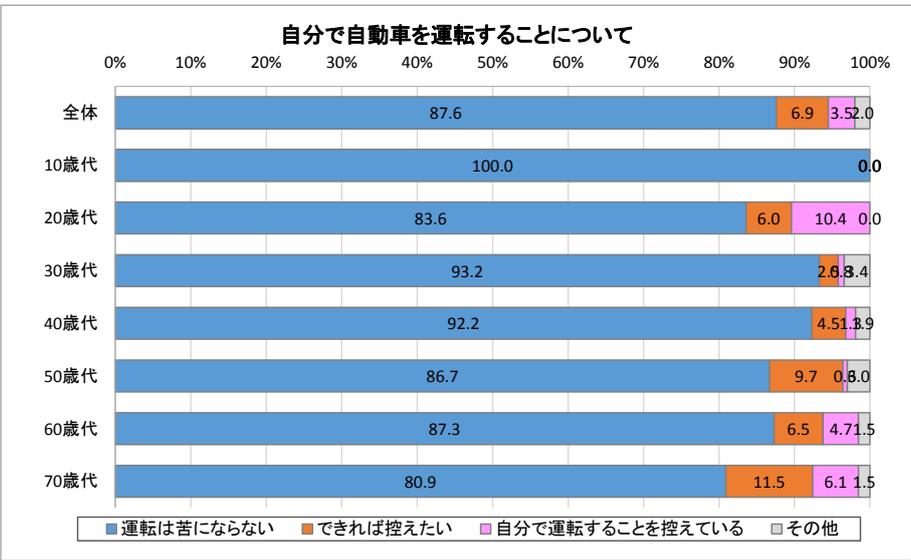
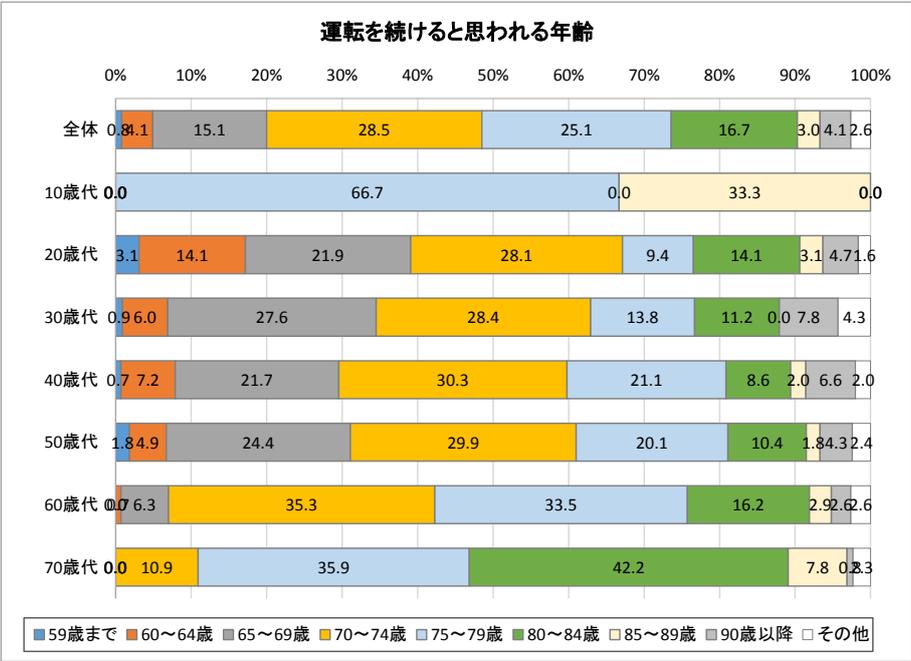
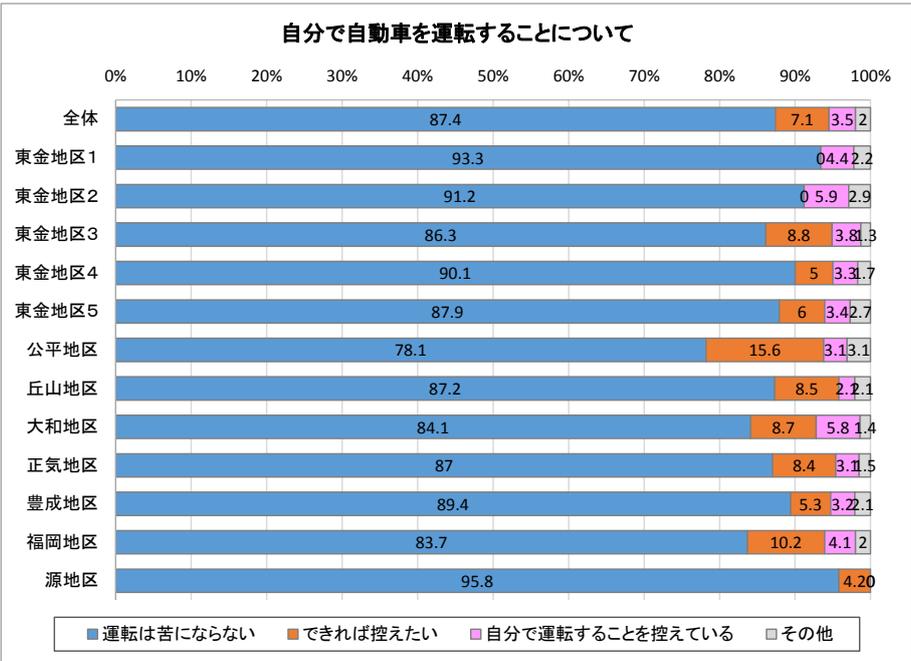




(4) 日常の交通手段について

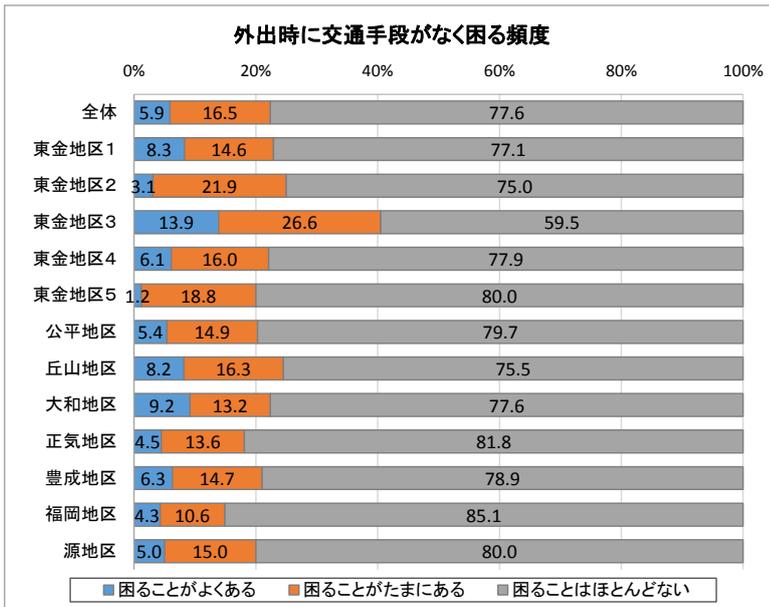
- 交通手段は「自家用車を運転」の割合が最も多く、2番目は買い物では「自転車」、通院では「自家用車で送迎」、通勤・通学では「鉄道」が多く目的により手段が異なっている。
- 運転を続ける年齢は、50代以上で10年以内に運転を止めると回答している方が多く、現在自動車を運転して移動している方の交通手段の確保の必要性が見られるが、一方で、現在の70歳代の80.9%の人は、「運転は苦にならない」と回答していることから、今後高齢化に伴い、高齢者が公共交通を利用することが期待しづらい面もある。



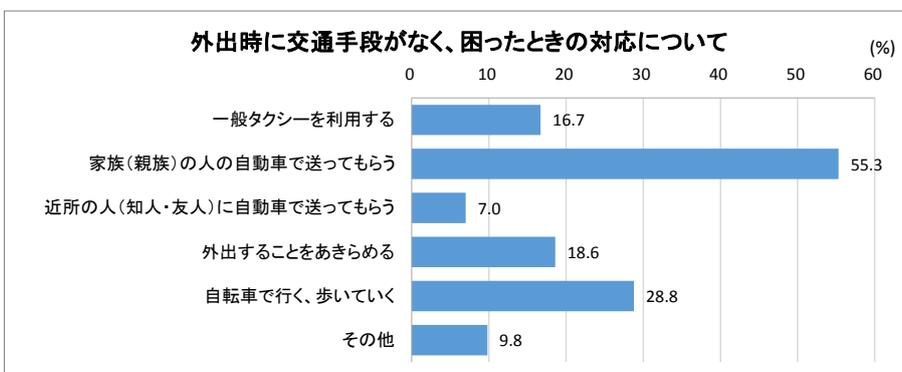
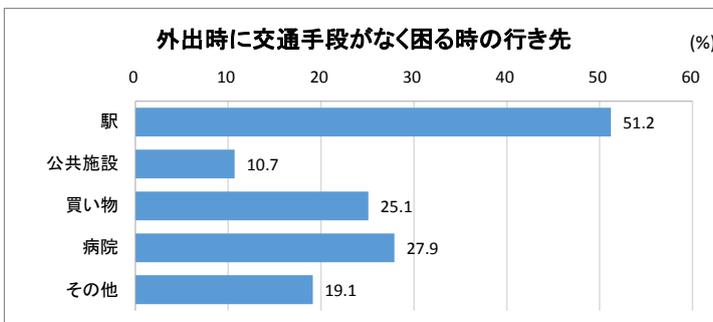
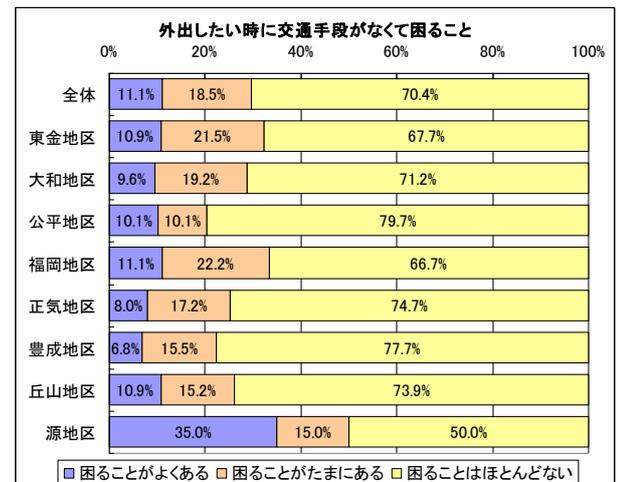


(5) 外出したい時に交通手段がなくて困る場合

- 全体では22.4%が「困ることがある」と感じている。平成24年に実施した調査結果(H24:29.6%)と比較すると、「困ることがある」の回答割合が減少しており、平成26年度より乗合タクシーが市内全域を対象とした運行を開始したことも一因となっていると考えられる。
- 「困ることがよくある」「困ることがたまにある」と回答した方の困る時の行き先は、「駅」が最も多くなっている。
- 困っている時は、「家族の人に自動車で送ってもらう」が最も多くなっている。

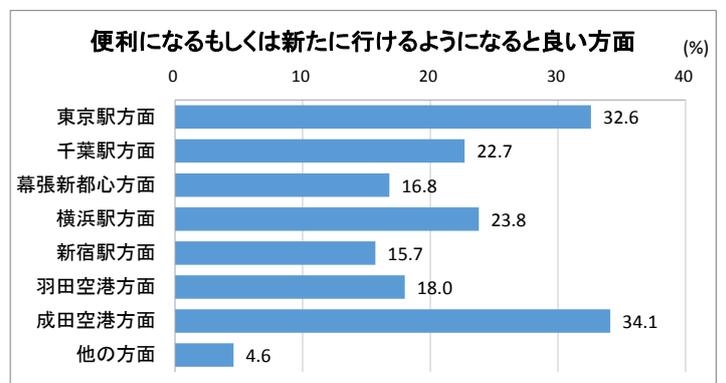
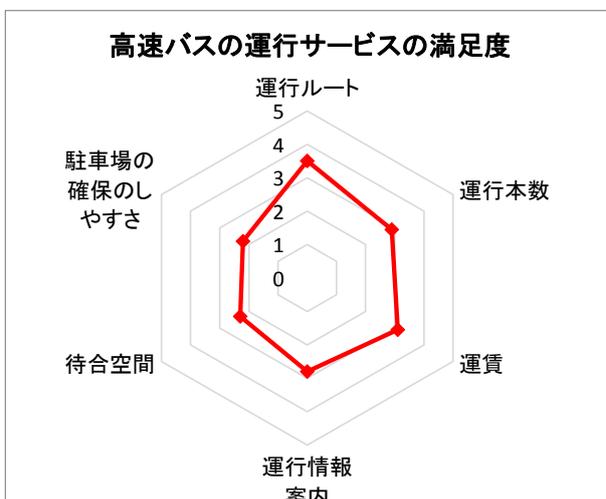
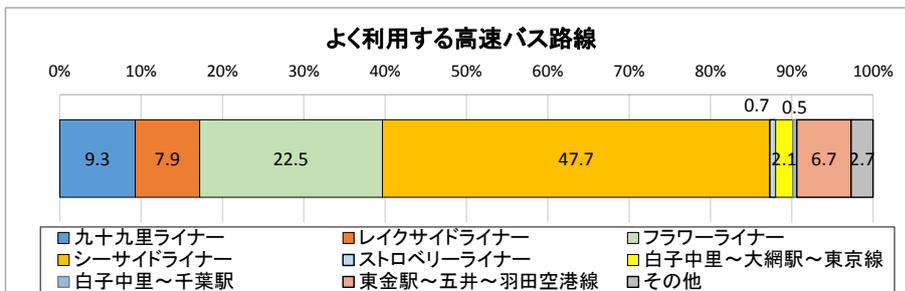
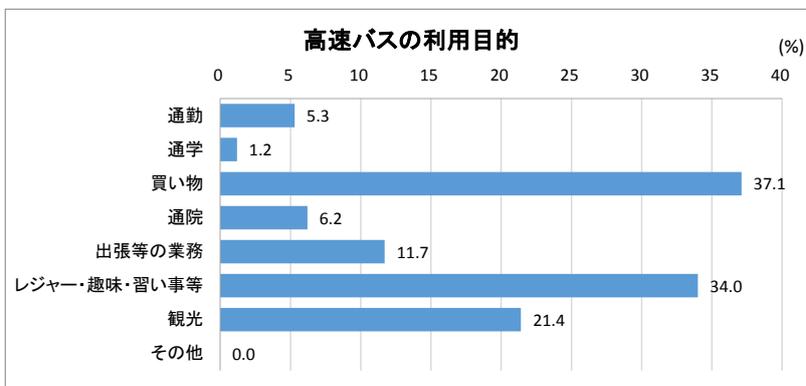
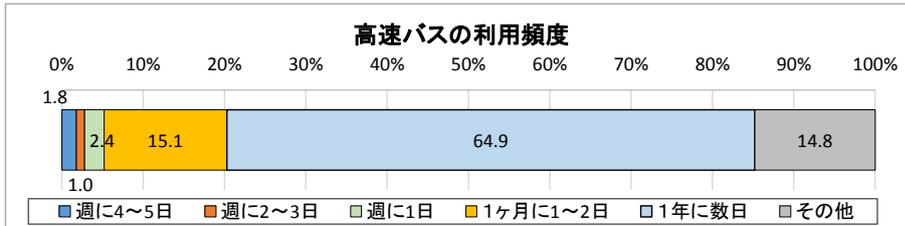


【参考】平成24年調査結果



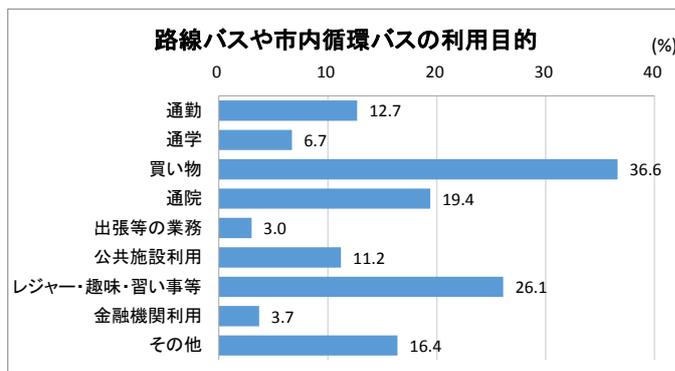
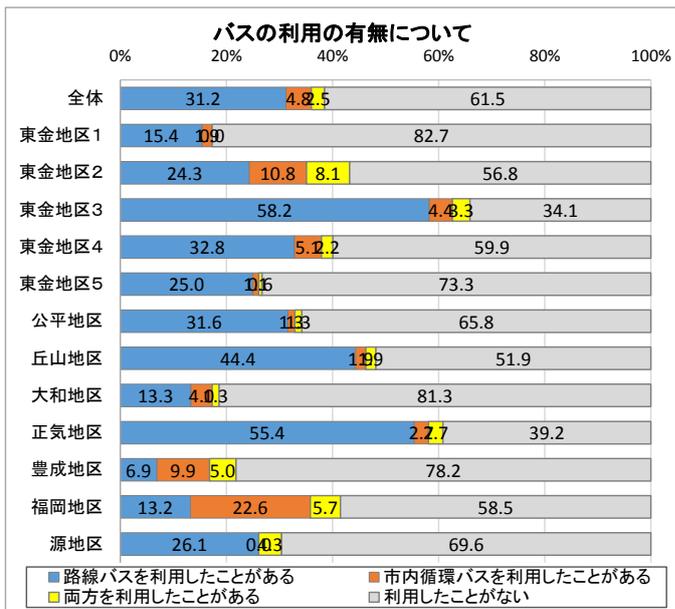
(6) 高速バスの利用について

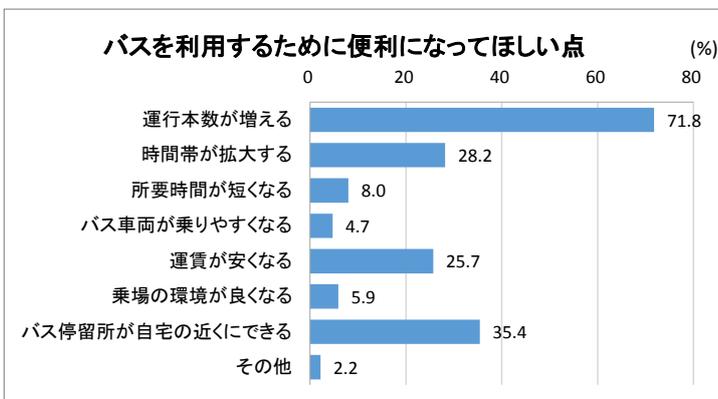
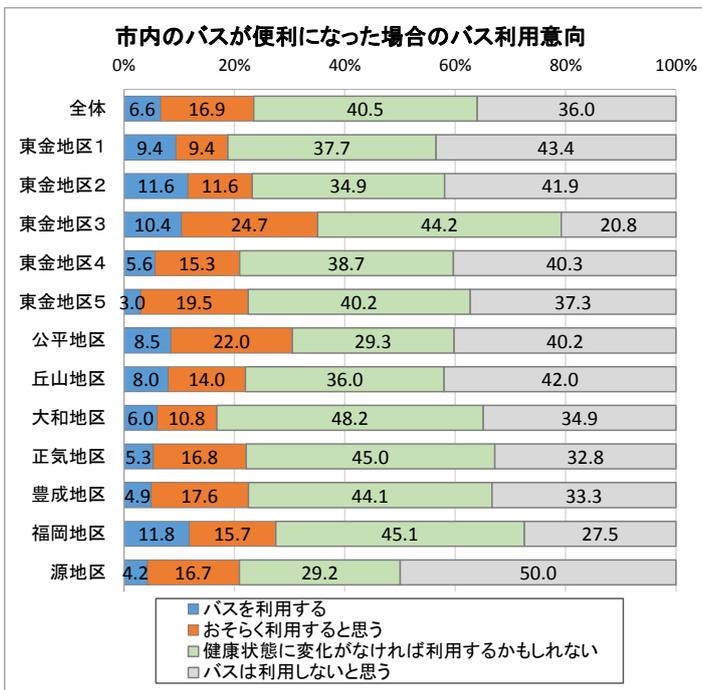
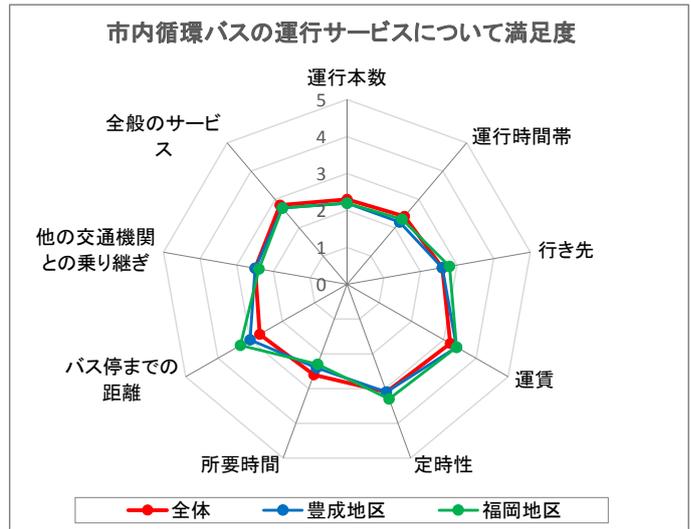
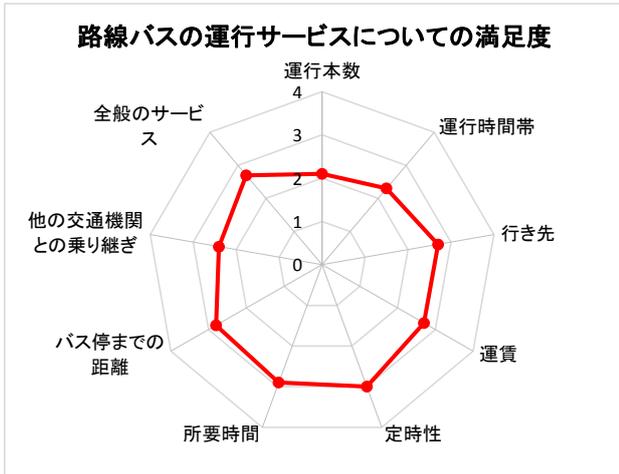
- 高速バスの利用頻度については、「1年に数回」と回答した人が一番多く、次いで「1ヶ月に1~2回」が多くなっており、利用頻度は低い。
- 市内に多くの高速バスが運行されており、そのうち「シーサイドライナー（成東車庫～東金市内～東京駅）」の利用が多くなっている。
- 高速バスの運行サービスについて、「バス停留所の待合空間」及び「バス停周辺での駐車場の確保のしやすさ」の満足度が低くなっている。また、東京方面の路線の充実及び横浜方面・成田空港方面などの新たな路線開設の要望が多くなっている。



(7) 路線バス及び市内循環バスの利用について

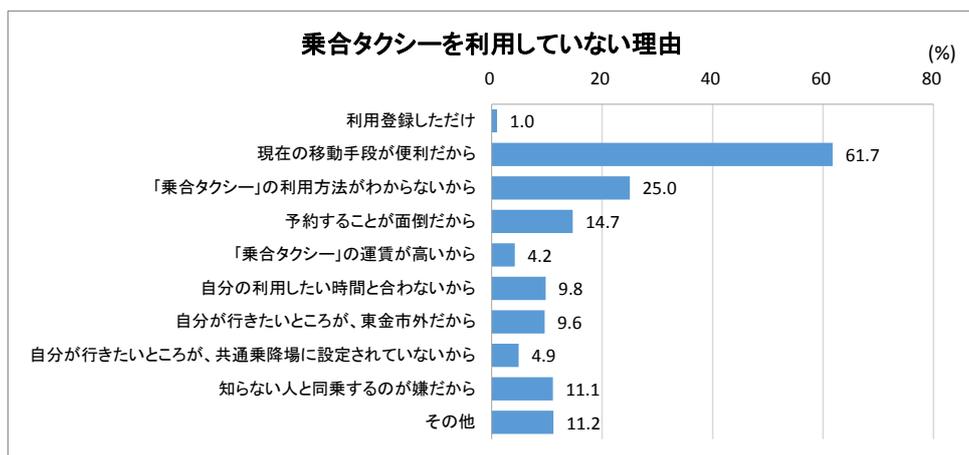
- 路線バスもしくは市内循環バスの利用については、東金地区3（日吉台）・正気地区以外の地区においては、回答者の半数以上が「バスを利用したことがない」となっている。比較的区内を面的に市内循環バスが運行している豊成地区では「バスを利用したことがない」と回答した人が78.2%となっている。
- 路線バスの運行サービスについての満足度は、「運行本数」、「運行時間帯」、「他の交通機関との乗り継ぎ」において満足度が低くなっている。他の項目についてはほぼ平均的な満足度となっている。
- 福岡地区及び豊成地区を運行する市内循環バスの満足度は、路線バスと同様に、「運行本数」と「運行時間帯」の満足度が低くなっている。また区内を網羅するようにルート設定されている経緯から所要時間が長い為、「所要時間」の満足度も低くなっている。市内循環バスについての全体でみた満足度と福岡地区及び豊成地区の回答者による満足度には大差は見られない。
- 現在、バスを利用していない人のうち、バスが便利になれば利用する可能性があると回答している人が64%となっている。その場合の改善点として、「運行本数が増える」が最も多く、「バス停が自宅近くにできる」、「運行時間帯が拡大する」の順となっている。





(8) 乗合タクシーの利用について

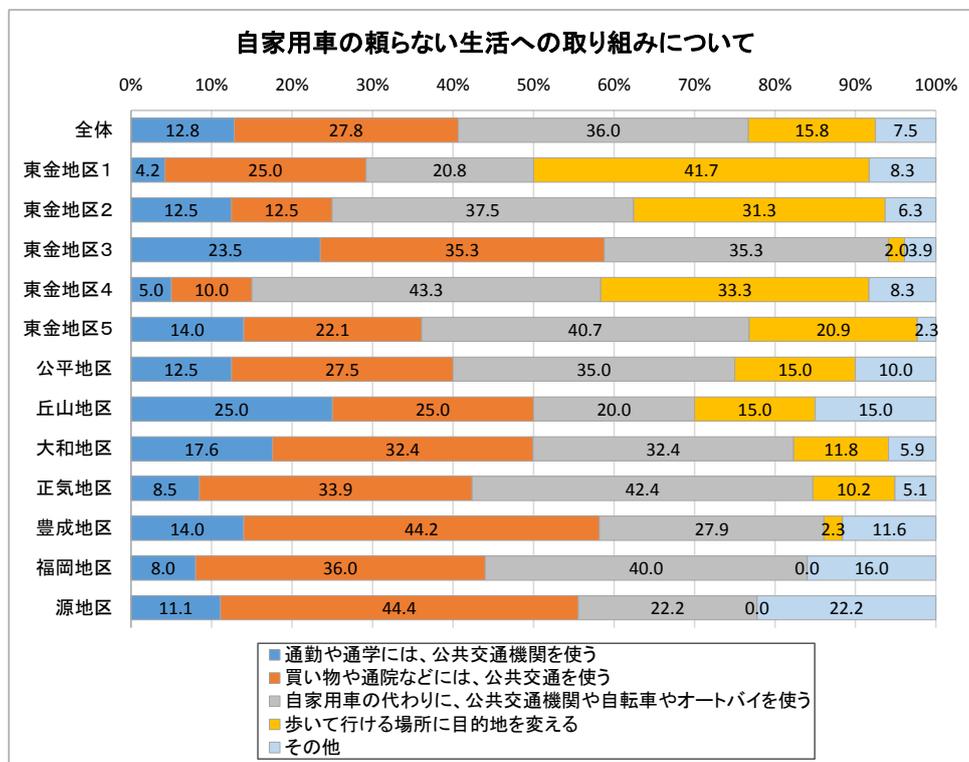
- 回答者のうち、乗合タクシーの利用登録を指定する割合は2.3%とかなり低い割合となっている。
- 乗合タクシーを利用していない理由として、「現在の移動手段が便利だから」が一番多くなっている。また、「乗合タクシーの利用方法がわからないから」が二番目に多く、乗合タクシーの利用促進を図るうえで、乗合タクシーの効率的なPRが課題と考えられる。
- 乗合タクシーの運行サービスについては、「運行エリア」及び「運行時間帯」についての満足度が他の項目に比べ低くなっている。



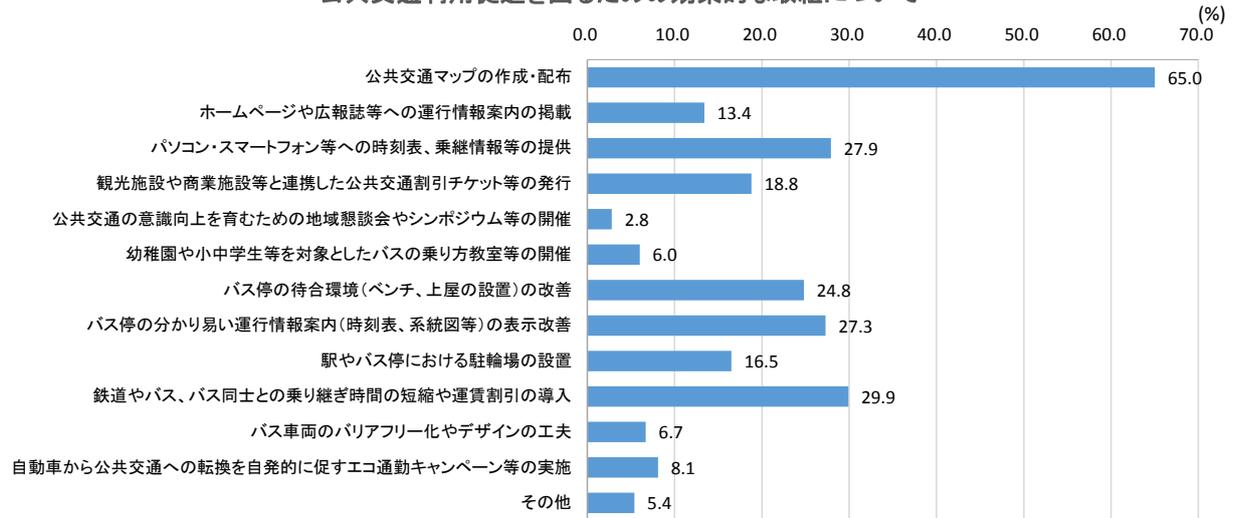


(9) 公共交通の維持・確保、利用促進策について

- 公共交通の維持・確保について、「現状と同程度の財政負担を維持するが、運行の効率化などの見直しを図るべき」と考えている人が多い。
- また、公共交通の利用促進を図るための取組として、時刻表・公共交通マップの作成・配布や乗継情報の提供、バス停等における分かりやすい情報案内の表示等の公共交通に関する情報提供に関わる取組を要望する人が多い。また、バス停の待合環境の改善への要望も多い。



公共交通利用促進を図るための効果的な取組について



2. バス利用者ヒアリング調査結果概要

2-1. 調査概要

調査地	・東金駅西口ロータリー、東口ロータリー、「東金駅入口」バス停付近 ・市内循環バス車内
実施方法	・路線バスの乗車待ちをしている方、降車してくる方にヒアリング ・市内循環バス利用者への車内ヒアリング ・ピーク時などは封筒と共に配布、郵送回収方式
実施期間	2016年1月26日(火) 6:00~19:00
サンプル数	178票(うち、郵送回収37票)
調査結果の見方	集計結果は、コンピュータにより機械的に、小数第2位を四捨五入し、百分率で表示している。集計結果によっては、個々の比率の合計が100.0%にならないケースもある。これは、例えば、回答者が同数で同じ比率でも、場合によっては合計を100.0%に合わせるために一方を「切り上げ」「切り捨て」の操作が必要となり、逆に事実と反する結果になることを避けるためである。

2-2. 調査結果

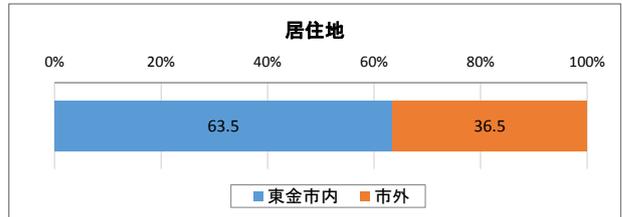
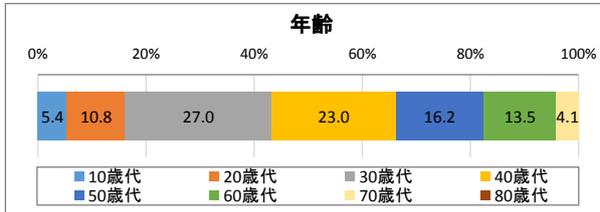
(1) 路線別回収票数

	路線名	集計数	合計
高速バス	シーサイドライナー	39	74
	フラワーライナー	13	
	レイクサイドライナー	13	
	羽田空港直行便	3	
	九十九里ライナー	6	
路線バス	片貝線	20	57
	豊海線	7	
	八街線	4	
	東金商業線	5	
	学芸高校線	2	
	千葉東金線	18	
	季美の森線	1	
市内循環バス	福岡路線	28	44
	豊成路線	16	
不明	—	3	3
合計			178

(2) 高速バス利用者についての集計結果

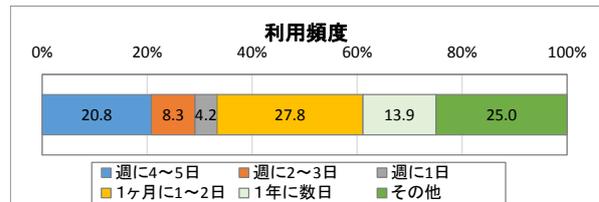
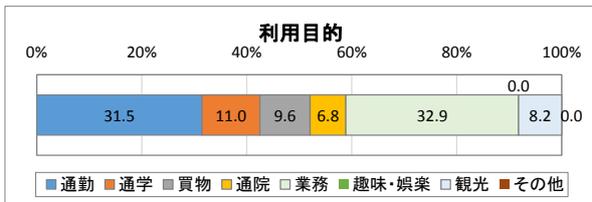
①回答者の属性について

- 高速バスは幅広い年齢の利用が見られ、20歳代及び30歳代が他の年代よりも利用割合が高くなっている。
- 利用者の居住地は、東金市内の割合が高くなっている。



②高速バスの利用について

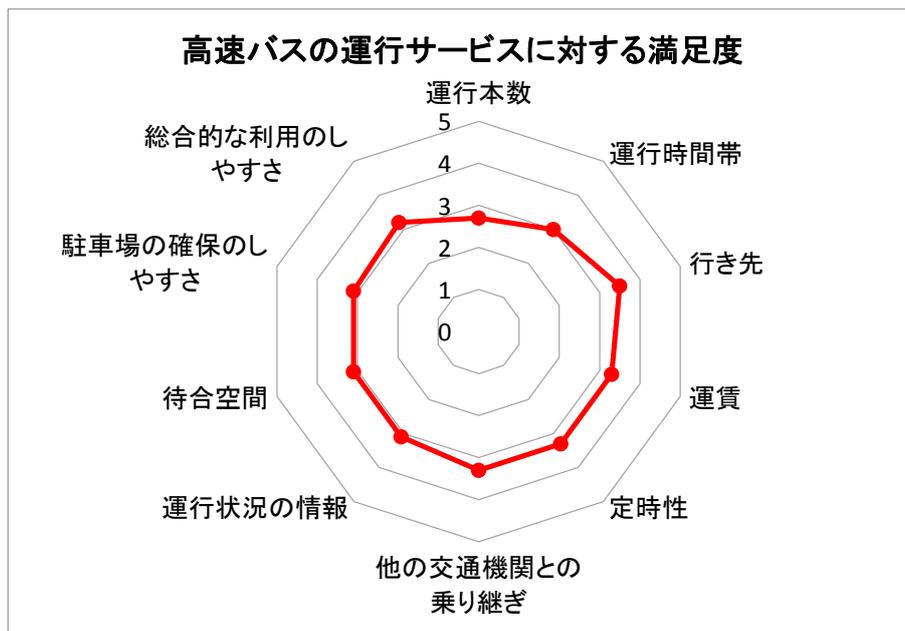
- 高速バスの利用目的として業務等の不定期な目的利用が多いことから、全体的には利用頻度は低くなっているが、通勤利用も多いことから利用頻度が多い利用者もいる。



③高速バスの満足度について

- 高速バスの満足度については、全体的には平均的な評価（満足度）となっているが、運行本数の満足度が他の項目よりもやや低くなっている。

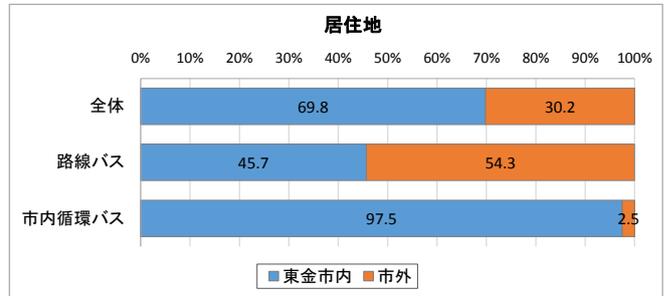
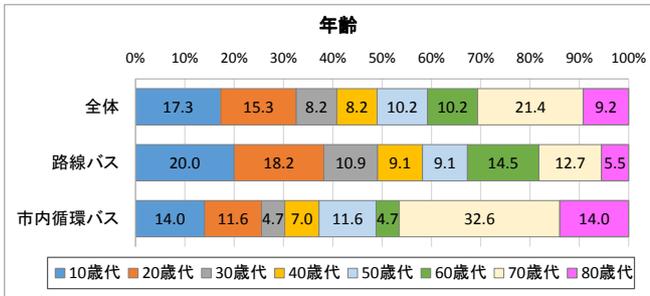
※満足度は、満足5、やや満足4、どちらでもない3、やや不満2、不満1での評価を5～1の点数とし、平均点を示している。



(2) 路線バス及び市内循環バス利用者についての集計結果

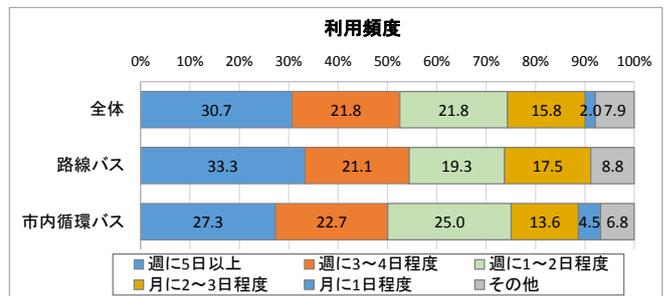
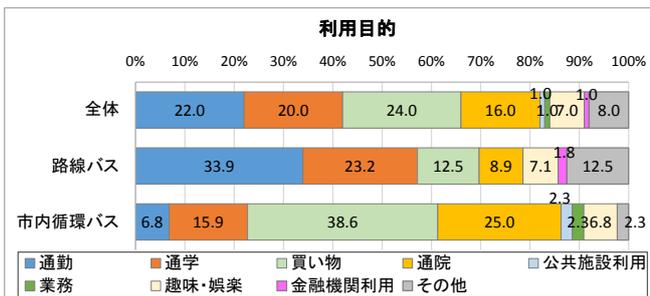
①回答者の属性について

○路線バスでは幅広い年齢の利用が見られ、市内循環バスは70歳以上の利用となっている。
 ○利用者の居住地は、路線バスでは東金市内と市外に別れており、市内のみを運行する市内循環バスは、市民の利用割合が高くなっている。



②バスの利用について

○路線バスは通勤・通学での利用が多く、市内循環バスは買い物、通院での利用が多くなっている。
 ○利用頻度においては、路線バス及び市内循環バスともに、「週5日以上」が多く、利用頻度は高くなっている。



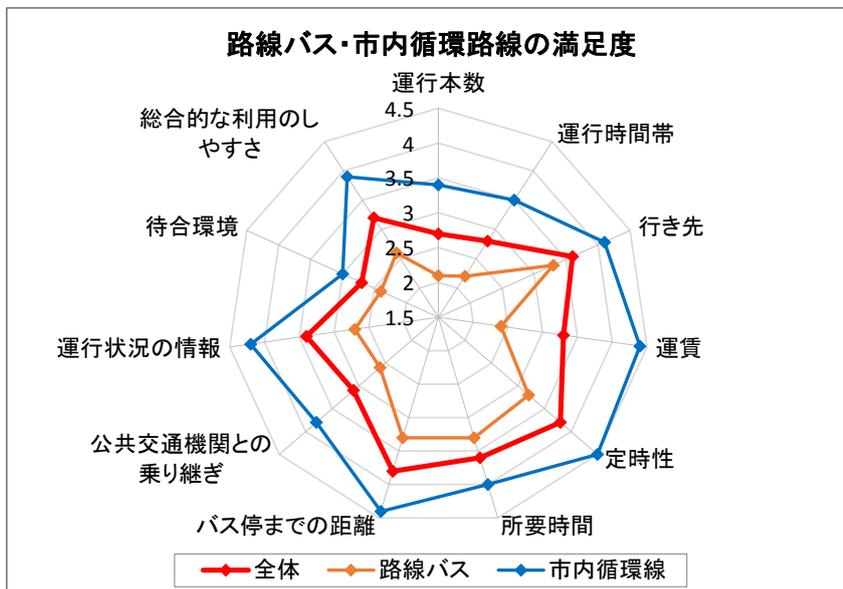
③バスの満足度について

- 全体及び路線バスの満足度については、11項目のうち自宅からバス停までの距離の満足度が高く、運行本数についての満足度が最も低くなっていることから運行本数の増便が求められている。
- 市内循環バスは、路線バスに比べ全体的に満足度は高く、最も満足度の低い項目は待合環境となっている。
- 路線バスは、どの路線も運行本数の満足度が低くなっている。

※満足度は、満足5、やや満足4、どちらでもない3、やや不満2、不満1での評価を5～1の点数とし、平均点を示している。

	運行本数	運行時間帯	行き先	運賃	定時性	所要時間	バス停までの距離	公共交通機関との乗り継ぎ	運行状況の情報	待合環境	総合的な利用のしやすさ
全体	2.7	2.8	3.6	3.3	3.8	3.6	3.8	3.1	3.4	2.7	3.2
路線バス	2.1	2.2	3.3	2.4	3.2	3.3	3.3	2.6	2.7	2.4	2.6
市内循環線	3.4	3.5	4.1	4.4	4.5	4.0	4.4	3.8	4.2	3.0	3.9
路線バス	片貝線	1.9	2.2	3.1	2.0	3.3	3.4	2.4	2.7	2.4	2.4
	豊海線	2.0	2.3	3.4	3.1	3.1	3.0	2.6	2.7	2.3	2.6
	八街線	3.2	2.6	4.2	2.4	4.0	4.0	3.0	2.5	3.0	3.0
	東金商業線	1.3	1.3	3.0	2.0	3.3	3.0	4.3	2.5	3.0	2.3
	千葉東金線	2.1	2.3	3.0	2.8	2.7	3.1	2.9	2.6	2.6	2.1
市内循環バス	福岡路線	3.3	3.4	4.2	4.3	4.4	4.2	4.3	4.0	4.3	2.6
	豊成路線	3.6	3.7	3.9	4.5	4.7	3.8	4.6	3.4	4.0	3.5

青 最も高い、赤 最も低い



3. 乗合タクシー登録者アンケート調査結果

3-1. 調査概要

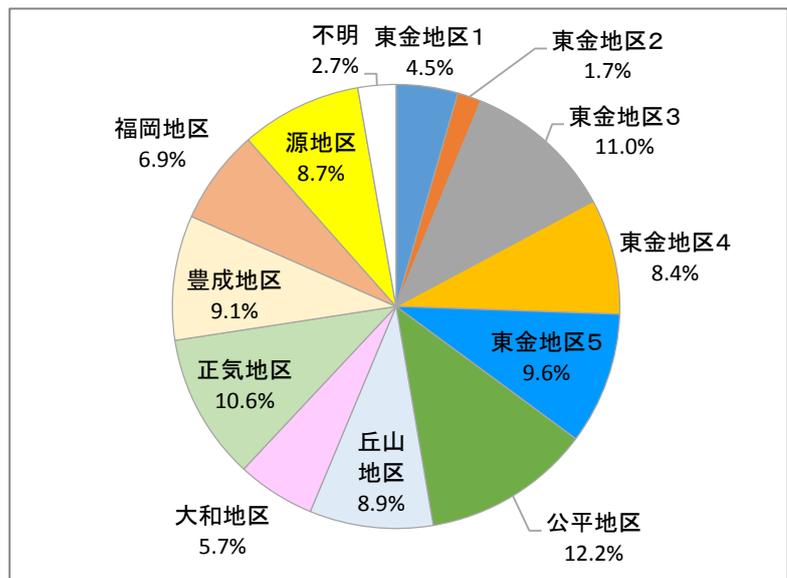
調査地	東金市内
実施方法	乗合タクシー利用登録者から無作為抽出し、郵送配布、回収方式
実施期間	平成 28 年 1 月 29 日（金）～2 月 12 日（金）
配布数	1,000 通
回答数	583 通
回収率	58.3%
調査結果の見方	集計結果は、コンピュータにより機械的に、小数第 2 位を四捨五入し、百分率で表示している。集計結果によっては、個々の比率の合計が 100.0%にならないケースもある。これは、例えば、回答者が同数で同じ比率でも、場合によっては合計を 100.0%に合わせるために一方を「切り上げ」「切り捨て」の操作が必要となり、逆に事実と反する結果になることを避けるためである。

3-2. 調査結果

(1) 地区別回答者数

今回のアンケート調査における地区別回答者数は、以下のとおりである。

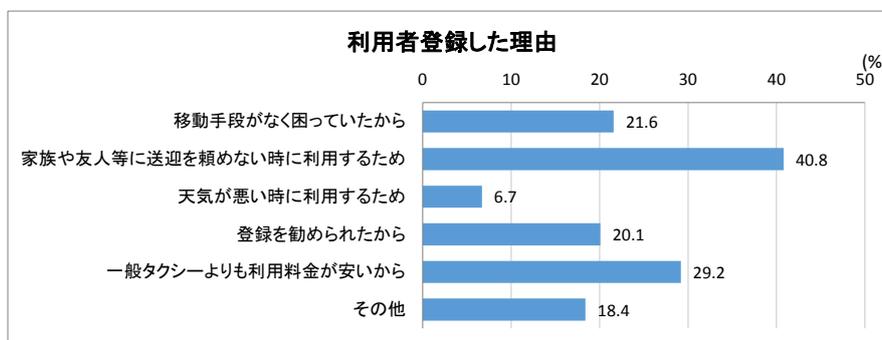
東金地区1(東金)	26
東金地区2(東上宿、南上宿、東岩崎、東新宿)	10
東金地区3(日吉台)	64
東金地区4(田間)	49
東金地区5(嶺南、城西)	56
公平地区	71
丘山地区	52
大和地区	33
正気地区	62
豊成地区	53
福岡地区	40
源地区	51
不明	16
総計	583



(2) 乗合タクシーの利用状況について

①利用者登録した理由

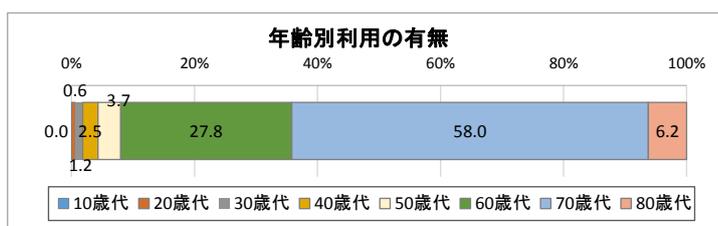
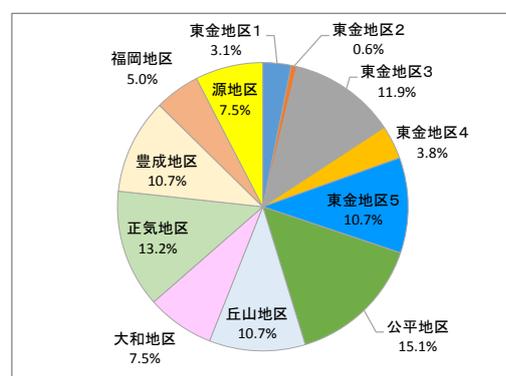
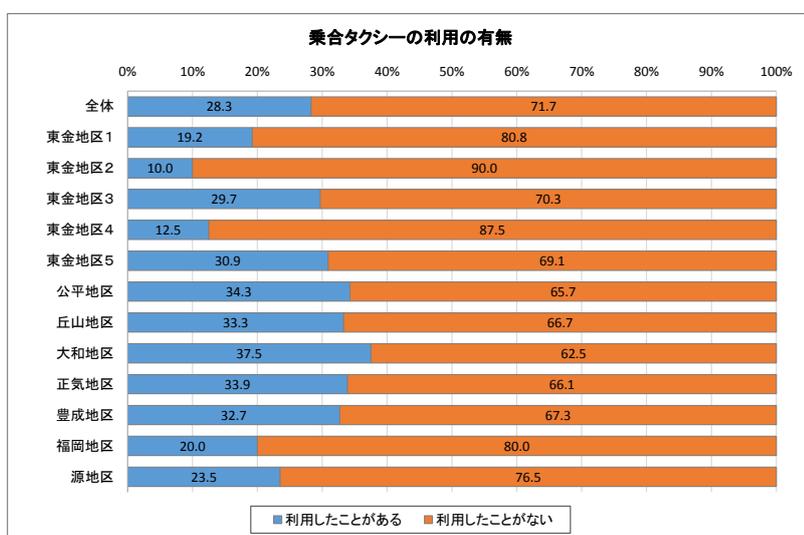
○利用者登録した理由として、「家族や友人等に送迎を頼めない時に利用するため」を挙げている人が多く、次いで「一般タクシーよりも利用料金が安いから」となっている。



②乗合タクシー利用の有無

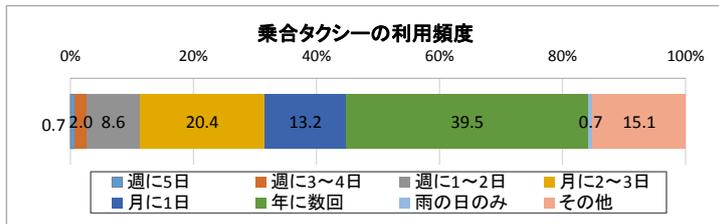
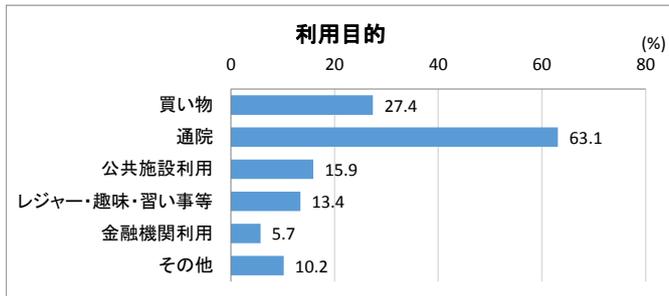
○利用登録した人のうち、実際に乗合タクシーを利用している人の割合は 28.3%となっている。地区別にみると、公平地区・岡山地区・正気地区において、利用割合が 30%を超えている。

○乗合タクシーの利用者の年齢構成をみると、60歳以上の方の利用が 92%を占めており、とくに 70歳代の方の利用が多い。



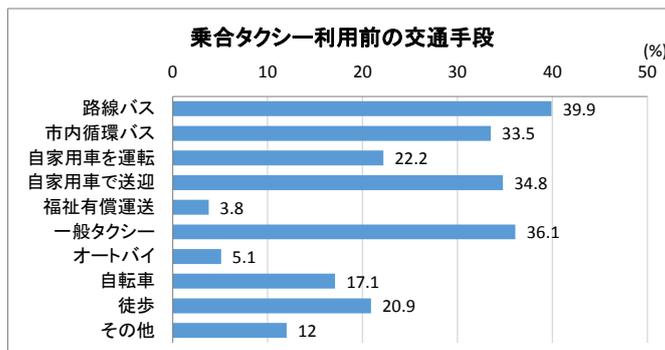
③乗合タクシーの利用目的・利用頻度

○乗合タクシーの利用目的は通院が多くなっており、利用頻度は「年に数回」が一番多く、利用頻度は低い。



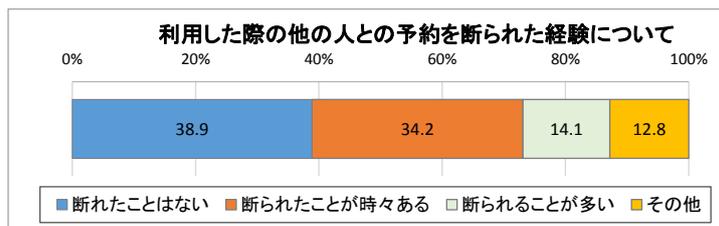
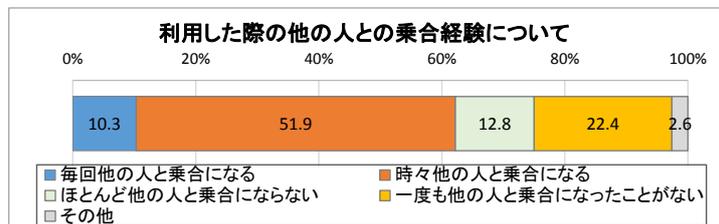
④乗合タクシーを利用する以前の交通手段

○乗合タクシーが運行する前の交通手段として、路線バス・市内循環バス・一般タクシー等の既存の公共交通からの転換が多い一方、これまで自家用車で移動していた人も利用も多い。



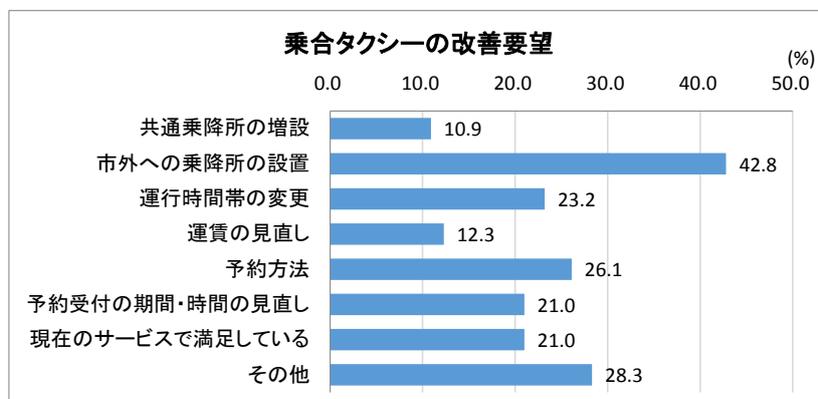
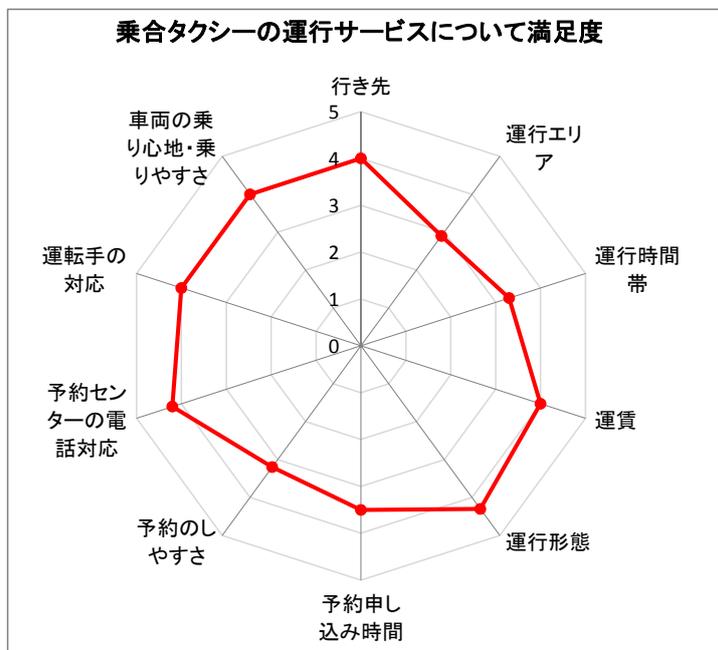
④乗合タクシーを利用した際の他人との乗合経験・予約拒否の経験について

○乗合タクシーを利用する際に、乗合になった経験がある人は利用者の62.2%を占めており、また予約を断られた経験がある人の割合が48.3%となっており、半数近くを占めている。



(3) 乗合タクシーの運行サービスに対する満足度・改善要望

○乗合タクシー利用者からみた運行サービスに対する満足度は、全体的には高くなっているが、「運行エリア」・「運行時間帯」・「予約のしやすさ」においては満足度が低くなっている。とくに「運行エリア」の満足度は一番低く、改善要望として利用者の約4割が「市外への乗降場の設置」の改善を望んでいる。



(4) 乗合タクシーを利用していない理由・今後の利用意向

- 乗合タクシーを利用していない理由として、「利用者登録しただけ」が一番多く、次いで、「現在の移動手段が便利だから」が次いで多くなっている。
- また、実際に乗合タクシーを利用している人の要望が高い「行きたいところが東金市外だから」を理由に挙げている人も多い。
- 現在は乗合タクシーを利用していないが、今後乗合タクシーの利用については、「運行サービスが改善されれば利用したい」と回答している人が多く、改善要望として「市外への乗降場の設置」を望んでいる。

